

課題名	大腸憩室出血患者における再出血に寄与する因子の検討
承認番号	2020-39 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 消化器内科 氏名 原 英展
研究期間	(西暦) 2021 年 4 月 ~ (西暦) 2021 年 10 月
研究の意義・目的	大腸憩室出血の入院患者は増加傾向でかつ高齢化が進んでいます。内視鏡的な処置を行う必要性のある場合はどのような場合かを推定できる因子の検討を行うことで、入院中の不要な検査をなくすことができますし、再出血してしまう因子があらかじめ予想できれば安全に入院生活を送ることができます。
研究の方法 (対象期間含む)	観察期間内(2016年10月から2020年10月まで)に消化管出血で入院した患者さんに対して憩室出血群(入院期間中に大腸内視鏡を行い他の疾患の否定をできた、もしくは造影CTで血管外漏出を認めた)を抽出します。 大腸憩室出血を診断し、入院時のバイタルサイン(血圧・脈拍)、採血データ(ヘモグロビン(Hb)、クレアチニン(Cre)、尿素窒素(BUN)、白血球数(WBC)、血小板数(Plt)、プロトロンビン時間(PT)、活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)、フィブリノゲン(Fib))、入院期間、年齢、性別、輸血量、内視鏡を含めた処置の有無に関して検定を行います。 再出血を来してしまった患者群と再出血を来さなかった患者群でどのような違いがあるのかを検討します。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	対象症例のカルテから以下のデータを抽出し、検定を行います。データは本研究の目的のみに使用し、個人が特定できない形とします。具体的には、対応表を用いてデータ管理を行い、使用するデータのみでは個人のIDなどが分からない状態とします。
利用又は提供する 試料・情報の項目	年齢、性別、入院期間、処置の有無、血圧、脈拍、採血データ、輸血量、CT画像、内視鏡画像を用いて比較検討を行います。
試料・情報を 利用する者の範囲	消化器内科 原 英展のみ
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	消化器内科 原 英展
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 消化器内科 氏名 原 英展 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101